

## 大学生の COVID-19 に対する認識、関連行動と主観的幸福感との関係 —Twitter, LINE と Instagram の使用を比較して—

西堀 涼香

COVID-19 の拡大に伴い、2020 年 4 月に緊急事態宣言が発令され、人々が新たな生活様式を強いられた。また、他者と直接会えず、感情や情報の共有が難しい状況になったため、いかにすればソーシャルサポート、特に情緒的サポートが受けられ、主観的幸福感（以下幸福感）を高められるかが重要になってくる。

これまで健康危機意識や情緒不安傾向の高い人ほど幸福感が低減するとされている。しかし、COVID-19 の影響で多く制限された生活において、COVID-19 に対する認識を深め、様々な関連行動をとることが幸福感の向上に繋がるのではないかと考えられる。また、対面の代わりに、SNS を使用し、道具的・情緒的サポートが獲得できれば、間接的に幸福感の向上に役立つと考えられる。そこで本研究では、COVID-19 に対する危機感が低いとされている大学生を対象に、健康危機意識や情緒不安傾向等の個人特性とともに、COVID-19 に対する認識と関連行動がいかに主観的幸福感と関係するのか、それは Twitter, LINE, Instagram の使用によって異なるのかを究明することを目的とした。

上記の目的を達成するために、関東地方の大学に在籍する学部生を対象に 2020 年 6 月上旬～中旬で調査を行った。調査内容は、個人情報や健康危機意識、情緒不安傾向、幸福感、COVID-19 に対する認識と関連行動、SNS の使用状況等とした。回答に不備があったものを除き、679 名を対象として分析を行った。

分析を行った結果、以下のことを明らかにした。①健康危機意識や情緒不安傾向の高い男子学生は 3 つの SNS を、女子学生は Instagram を使用し、個人特性から COVID-19 に対する認識を介し関連行動に影響を与え、幸福感を高めた。また、男子学生のみ個人特性から関連行動を介し認識に影響を与え、幸福感を高めた。②男子学生は 3 つの SNS から道具的・情緒的サポートを受けたが、女子学生は Instagram のみから情緒的サポートを受けた。これらのことから、男女ともに健康危機意識や情緒不安傾向が高い人は、COVID-19 に対する不安を感じやすいが、それらを緩和するために情報収集や不安解消等の行動をとることが幸福感の向上に寄与したと考えられる。一方、男子学生は異なる SNS を併用し、情報収集を行い、道具的サポートともに情緒的サポートを受けた。それに対して、女子学生は情緒的サポートの獲得をするために Instagram をしていた。その結果、女子学生の場合、関連行動から認識を介した場合は、幸福感の向上に繋がらなかったのかもしれない。

これらの結果から、COVID-19 拡大のような非常事態において、SNS 使用は情報収集のみならず、ある程度の情緒的サポートも提供していることが示唆された。つまり、現在でも非常事態が続く状況において、SNS を活かしてソーシャルサポートを得ることは心的健康を保つには役立つと示唆された。

(指導教員 叶 少瑜)